

# 愛知県版

# チームオレンジ事例集



## はじめに

チームオレンジに取り組む市町村の皆様へ

地域や職域において、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」は、これまでに全国で約1,200万人、愛知県で約66万人が養成されています（2020年9月30日現在）。

また、これまでに養成された認知症サポーターの中には、認知症カフェやサロンを開いたり、傾聴や見守りなどの活動を自らの意思で行うサポーターも誕生しています。

このような動きをさらに発展させるため、2019年6月に国が策定した「認知症施策推進大綱」では、できる範囲で手助けを行うというサポーターの活動の任意性は維持しつつ、認知症の人や家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぎ、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりの具体的活動「チームオレンジ」を2025年までに全市町村で取り組むこととされました。

県内では、チームオレンジに取り組む市町村はまだ少数であるため、このたび、チームオレンジに取り組もうとお考えの市町村の皆様のご参考となるよう、事例集を作成し、ご紹介します。

この事例集が市町村の皆様の取組の一助となることを願ってやみません。

令和2年11月13日 愛知県福祉局高齢福祉課

# 目次

事例1	認知症サポーターが活躍できる地域づくりのしかけ（名古屋市北区）	1
事例2	大清水地区における地域住民による見守りネットワーク構築（豊橋市）	3
事例3	口と喉を鍛える「岡崎モクザえもん体操」普及啓発（岡崎市）	4
事例4	地域ボランティア活動（介護保険外支援）（常滑市）	7
事例5	認知症カフェ（カフェを中心とした地域連携とサポーター活動の推進）（江南市）	9
事例6	住民主体の認知症ボランティア活動（知立市）	10
事例7	ケアドカフェひろみの取組（岩倉市）	11
事例8	おたがいさま活動（暮らしの困りごと支援）（豊明市）	13
事例9	オレンジパラソルによる認知症予防啓発運動（東浦町）	14

**【名古屋市北区】**

**認知症サポーターが活躍できる地域づくりのしかけ**

運営団体基本情報	
●運営団体名	名古屋市北区東部・西部いきいき支援センター
●運営法人	社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会
●設置年	2006年4月～
●スタッフ構成	保健師、主任介護支援専門員、社会福祉士、介護支援専門員、見守り支援員、事務職員
●運営財源	名古屋市委託金（地域包括ケア推進会議 認知症専門部会経費）
●連絡先	TEL:052-915-7545 Mail:h-kita-seibu@nagoya-shakyo.or.jp

事業概要	
●活動形態	認知症サポーターが区の認知症施策に関与（意見・提案）する仕組みづくり
●活動場所	名古屋市北区
●対象者層	認知症サポーター約100名 （うちサポーターカフェへの参加者：約30名、世話人会メンバー：地域住民4名、専門職1名（サポーターカフェ参加者の中から選定））
●平均利用者数	サポーターカフェへの参加者 約30名/回
●活動頻度	年3回程度
●参加費用	無料

**【活動の特徴】**

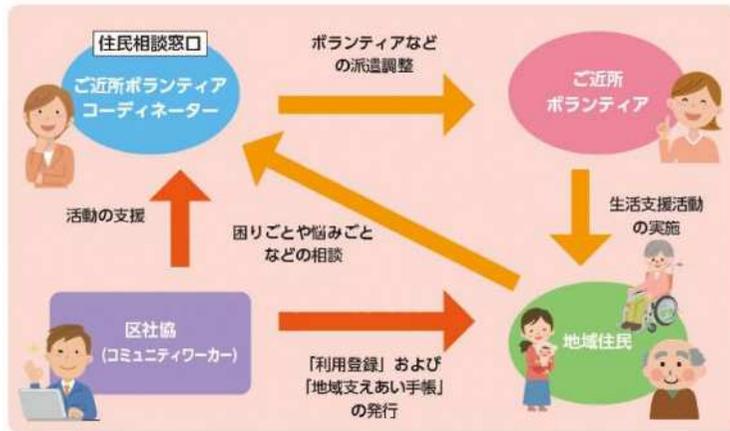
●経緯	<p>○ 名古屋市では各区に地域包括ケア推進会議認知症専門部会が設置されている。しかし、認知症専門部会は医師をはじめとした専門職を中心に構成されていたため、専門部会は地域の認知症サポーター（以下、サポーター）の活動を把握できておらず、サポーターも区の認知症施策を知らないという課題があった。</p> <p>○ 上記の課題を解決するために、サポーターと区の施策を結びつける仕組みとして、「サポーターキャリアビジョン（以下、キャリアビジョン）」を作成（2016年）。サポーターとしての活動例やステップアップの流れを見える化した。サポーターの地域での活動が、区の認知症施策につながっており、施策の中で重要な役割を担っていることを示した。</p> <p>○ キャリアビジョンの中心となる取り組みとして、サポーターがつどい、学び、考え、交流する場として、また、サポーターの活動事例や意見を収集する場として、「認知症サポーターカフェ」を開始（2016年）。認知症サポーターフォローアップ研修を受講した認知症サポーターが集まり研修・グループワーク・他の関係団体との交流を行っている。</p> <p>○ 2017年度には、サポーターカフェ参加者の中から「名古屋市北区認知症サポーター世話人会（サボレンジャー）」を結成。認知症専門部会で提言を行う仕組みづくりを進めている。</p>
-----	---

**●具体的な活動**

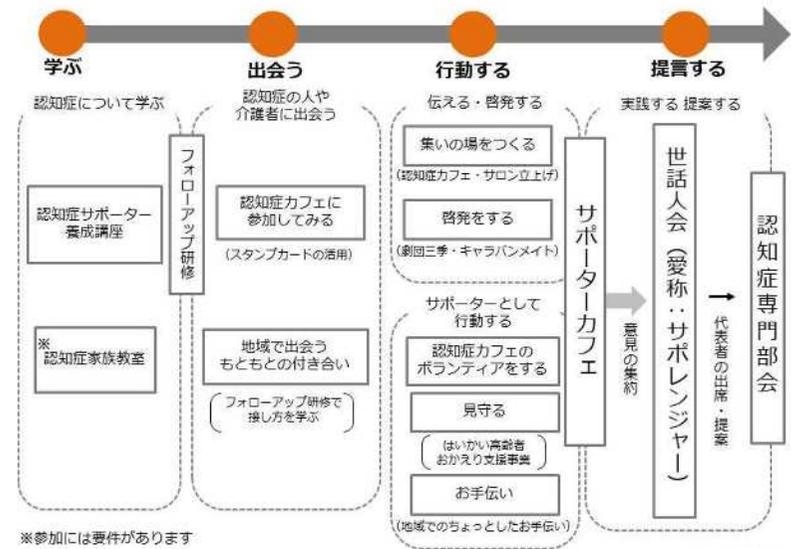
- 認知症サポーターキャリアビジョン
  - ・ 認知症サポーターが研修を受けてから活動を行うまでの一連の流れを「見える化」することで、サポーターの活動促進を図る。
  - ・ 認知症について「学ぶ」、認知症当事者や介護者に「出会う」、実際にサポーターとして「行動する」、サポーターとして意見を「提言する」という4つのステップを示すことで、積極的に活動してもらおうとともに、区の認知症施策への参加を促している。
- サポーターカフェ
  - ・ 2016年12月から年2、3回の頻度で実施（研修1回、グループワーク1回、他団体との交流1回）。参加者は、フォローアップ研修受講者約100名のうち30名程度。
  - ・ サポーターカフェでは、サポーターがやっていること、やりたいこと、できることを話し合っている。地域ではサポーターによる小さなグッドプラクティスが蓄積しているが、潜在化してしまっているため、それを共有している。
  - ・ キャラバンメイトやカフェ運営者などすでに活動を行っているサポーターと交流することにより、サポーター発の活動へとつなげている。
  - ・ サポーターカフェを通してサポーターの自主的な活動が活発化し、これまでに認知症カフェ「ぐっCafe」や、認知症啓発を目的とした劇を行う「劇団三季」の立ち上げ支援を行った。
- 名古屋市北区認知症サポーター世話人会（サボレンジャー）
  - ・ サポーターカフェ参加者の中で意欲がある人を「名古屋市北区認知症サポーター世話人会（愛称：サボレンジャー）」に任命。
  - ・ 現在5名（地域住民4名、専門職1名）で構成されており、それぞれの得意分野を活かして活動している。
  - ・ サポーターカフェでサポーターの意見・提案を集約し、認知症専門部会において提言するほか、サポーターフォローアップ研修、サポーターカフェの企画立案、認知症啓発活動の企画運営を行っている。
  - ・ これまでに世話人会の提案がきっかけで、認知症カフェに親族等の認知症介護経験があるサポーターを区内のカフェに派遣し傾聴を中心とした介護者支援を行う「カフェとも」制度を創設。また、世話人会の自発的な活動として、認知症啓発イベント「認知症をもっと知ってもらおうウォーキング」の開催が実現。
- （参考）名古屋市地域支えあい事業
  - ・ 名古屋市が実施する介護予防・生活支援サービス事業の一つとして、各小学校区の地域福祉推進協議会が推進する取組。
  - ・ 地域住民（高齢者、障がい者、子育て中の方）の生活の中のちょっとした困りごとを近所のボランティアがお手伝いする。支援内容は電球の取り換え、ゴミ出しや清掃、買い物・通院の付き添い、傾聴、草むしり等
  - ・ 各区の窓口には住民の中から選ばれた「ご近所ボランティアコーディネーター」（謝礼有）が配置され、相談・派遣調整等のマッチングや、事業に伴う事務を行う。
  - ・ ご近所ボランティアには認知症サポーター養成講座受講者も含まれており、認知症の方を含む高齢者支援を行っている。

●活動経費	名古屋市委託金（地域包括ケア推進会議 認知症専門部会経費）
ココがPoint!!	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域では、サポーターによる小さなグッドプラクティスがたくさん生まれており、それを施策に反映している。</li> <li>○ 「サポーターキャリアビジョン」でサポーターの活動プロセスを見える化し、サポーターの地域活動を区の施策に反映する仕組みをつくっている。</li> <li>○ 「サポーターカフェ」でサポーターの交流・意見交換の場をつくることで、サポーターになった方が実際に活動するまでを手厚くフォローし、実際の活動へつなげている。</li> <li>○ サポレンジャー（認知症サポーターフォローアップ講座受講者のうち代表となる者5名）として区の認知症施策会議に参加してもらうことで、市民が区の認知症施策に関与を持つとともに、住民目線の意見を施策に反映することができる。</li> <li>○ 将来的には認知症の人やサポレンジャー、地域住民、企業、専門職、行政などが一堂に会し、「北区のまちづくり」について議論する場を開催し、できることを進めていく。認知症サポーターの持つ様々なスキルを活かした活躍の場を準備し、北区内の様々な場所でサポーターが活動できるようにしていく（北区版チームオレンジ）</li> </ul>

地域支えあい事業（生活支援活動の流れ）



### 認知症サポーター キャリアビジョン



2019年4月版

**【豊橋市】**

**大清水校区における地域住民による見守りネットワーク構築**

運営団体基本情報	
●運営団体名	大清水見守りの会
●代表者名	大清水校区自治会長
●事業開始	2018年11月～
●スタッフ構成	会長：大清水校区自治会長 委員：大清水校区副自治会長3名 民生委員、老人会、消防団、校区内介護施設 豊橋市南部地域包括支援センター
●運営財源	なし（会計を持たない）
●連絡先	TEL:0532-25-7100（豊橋市南部地域包括支援センター） Mail: nanbu-houkatu@toyohashi-shakyo.or.jp

事業概要	
●活動形態	住民主体の見守り活動
●活動場所	大清水校区
●対象者層	認知症のご本人やご家族
●平均利用者数	—
●活動頻度	①行方不明者搜索模擬訓練：年1回 ②行方不明情報の回覧・連絡網による情報共有：行方不明発生時
●利用料金	無料

**[活動の特徴]**

●経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年6月に校区内の認知症の方が行方不明になり、家族と関係者は搜索をしていたが、当初その方の情報を地域で共有できていなかった。そして行方不明から1カ月以上たって死亡発見された。もっと早く知らせてくれたらもっと協力できたのではないかとこの後悔が残った。</li> <li>上記のことより、行方不明になった早い段階に「正しい情報を自治会や地域全体で共有できたら、見つけることが出来るのではないか」「協力できる人や地域の団体同士が連携を取れたら、見つけることが出来るのではないか」という声が上がリ、自治会、民生委員、老人クラブ、消防団、校区防災リーダー、介護保険事業所、警察署、交番を中心に地域ケア会議にて話し合いを開始した。豊橋市には「豊橋おかえりネット（行方不明者のメール配信）」があるがスマホ登録になじめないとの声や、校区内ならより短時間に搜索が開始できる、見知った人ならより見つけやすいとの意見が出たため、住民独自のネットワークを立ち上げることになった。</li> </ul>
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの中で認知症についての理解を深めたいとの声もあがり認知症サポーター養成講座を校区住民向けに実施。</li> <li>講座と並行して地域全体での情報共有の方法を検討し、地域での連絡網、緊急回覧のしくみづくりを行った。</li> <li>平成30年11月に大清水見守りの会が発足。平成31年1月に行方不明者搜索模擬訓練を実施。</li> </ul>
●具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見守りの会の連絡網を作成。年に1回見直しを実施。実際に校区内で行方不明が発生した時に連絡網を活用して情報共有。地域での搜索活動を実施。</li> <li>＜実績＞</li> <li>令和元年度：1件（家族が公表を躊躇していたが自治会が説得して搜索。隣接の校区で見つけることができた。）</li> <li>令和2年度（10月現在）：1件（妻から自治会へ依頼。住民が搜索開始し、市の配信より前に見つかった）</li> <li>○年に1回、行方不明者搜索模擬訓練を実施。</li> <li>・搜索模擬訓練前には認知症サポーター養成講座を実施し、声掛けや対応方法について学んでいる。</li> <li>・地域での取り組みを広げるために隣接する地域の自治会、民生委員等に働きかけ、訓練への参加を呼び掛けている。</li> <li>○校区内の他の活動との協働</li> <li>・高齢者や障害者のちょっとした困りごとに対応する組織（支え合いの会）へも参加しているメンバーもいる。</li> <li>・校区内にあるグループホームを会場として、認知症の方との交流や子どもの貧困問題も含め、多世代を対象とした食堂の開催に協力しているメンバーもいる。</li> </ul>
●活動経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議や認知症サポーター養成講座の資料代等は豊橋市南部地域包括支援センターが負担。</li> <li>・その他の経費については発生なし。</li> </ul>
	 <p>☆地域で実際に起こった行方不明事例に対して関係者みんなで丁寧に向き合うことで、他人事ではなく『ジブンゴト』としてとらえることができた。 ☆会議を重ねる中で「話し合いだけでなく、実際に動いていかないと意味がない」との住民の声をきっかけに、会議の中で出た内容を一つずつ地域ケア会議参加者（住民80人ほど）が主体となって具体化していった。 ☆一から新しく作り出すのではなく、もともとある組織を基にそれぞれが横に繋がることで情報共有ツールを作成することができた。</p>



**【岡崎市】**

**口と喉を鍛える「岡崎モグザえもん体操」普及啓発**

運営団体基本情報	
●運営団体名	岡崎市
●代表者名	福祉部 長寿課 ほか
●事業開始	2018年4月～
●スタッフ構成	長寿課、地域包括支援センター（認知症地域支援推進員・認知症キャラバンメイト兼務）岡崎リハビリテーションネットワーク
●運営財源	地域支援事業費 あいちオレンジタウン構想認知症に理解の深いまちづくりモデル事業
●連絡先	TEL: 0564-23-6837 Mail: chiikihokatsukea@city.okazaki.lg.jp

事業概要	
●活動形態	住民主体
●活動場所	公民館等市内全域
●対象者層	住民主体による介護予防活動「岡崎ごまんどく体操」を1年以上継続して実施している団体（65歳以上の高齢者）
●平均利用者数	
●活動頻度	週1日
●利用料金	各団体による

**【活動の特徴】**

●経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年9月から介護予防事業として、地域住民主体で取り組む介護予防事業「岡崎ごまんどく体操（筋力体操）」の推進支援を開始した。行政と地域包括支援センター、岡崎リハビリテーションネットワークが協働して団体の立ち上げ支援を行い地域住民とともに「通いの場」を形成し、地域づくりを行っている。</li> <li>県委託事業「あいちオレンジタウン構想認知症に理解の深いまちづくりモデル事業（平成30年度から令和2年度までの3か年）」において、高齢者の誤嚥性肺炎罹患率の高さ、口腔内の衛生状態の悪さ、咀嚼機能の低下により認知症の発症リスクが上がるとい研究結果があるにも関わらず、摂食嚥下支援や口腔ケアに対する取組が少ないことから、当市は「最期までおいしく食べよう～食を通した多職種連携～」をテーマに認知症本人、その家族等を支えるための仕組み・体制の構築、多職種の連携・ネットワークを構築し、認知症本人・その家族等に支援を行う体制の構築を目指してきた。その中で市民に対する啓発として、摂食嚥下や口腔ケア等の「食」に関する知識や理解を深めるために、口と喉を鍛える「岡崎モグザえもん体操」を多職種で制作し普及活動を実施している。</li> <li>「岡崎モグザえもん体操」作成に携わった多職種 岡崎歯科医師会・岡崎歯科衛生士会、岡崎リハビリテーションネットワーク、岡崎市、岡崎市民病院、岡崎市立看護専門学校</li> </ul>
-----	---

●具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政は、地域包括支援センターと岡崎リハビリテーションネットワークの職員を対象に、普及啓発に関するオリエンテーションを実施。地域包括支援センターと岡崎リハビリテーションネットワークがチームとなり、岡崎ごまんどく体操開始後1年を経過した団体に、口腔機能向上と栄養改善を目指し、各団体に摂食嚥下や口腔ケア等の講義と、口と喉を鍛える「岡崎モグザえもん体操」の指導を実施。</li> <li>指導を受けた各団体は、「岡崎ごまんどく体操」終了後に「岡崎モグザえもん体操」を実施。</li> </ul> <p>○上記団体の活動におけるサポーターの役割 行政と地域包括支援センター、岡崎リハビリテーションネットワークが立ち上げた「通いの場」には、認知症サポーターもスタッフとして参加しており、通いの場に参加している高齢者の支援を行っている。 具体的には、当該通いの場におけるサポーターの役割として、通いの場に参加する認知症の人や物忘れの心配のある方に対して、生活状況の確認や早期介入、認知症の人が通いの場に参加しやすくなるよう調整役などの支援を行っている。 その結果として、参加した高齢者や認知症当事者の認知症予防や認知機能の維持に役立っている。</p>
●活動経費	岡崎リハビリテーションネットワーク事業協力者報奨金 普及啓発用DVD・CD・パンフレットの作成費
	<ol style="list-style-type: none"> <li>口と喉を鍛える「岡崎モグザえもん体操」を多職種が連携して考案し、普及啓発DVDには、将来地域医療・介護を支える看護学生の教育の一環となった。</li> <li>市民の口腔機能向上と栄養改善を目指し、岡崎ごまんどくの各団体に摂食嚥下や口腔ケア等の講義と、口と喉を鍛える「岡崎モグザえもん体操」の普及啓発を行うことで、週1回継続して体操が実施できる。</li> <li>認知症地域支援推進員と認知症キャラバンメイトを兼務する地域包括支援センターが支援することで、認知症の方や高齢者の早期支援に繋がる。</li> </ol>



**資料**

「普及啓発DVD」



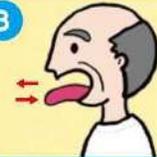
## 2. しっかり噛める口をつくるために

この体操はいつまでも自分でしっかりと噛んで食べるための体操です。  
岡崎ごまんぞく体操と一緒に、この体操もやってみましょう。

### 岡崎モグザえもん体操

- 

**肩の上下体操 10回**  
肩をキュッとあげて、ストンと落とします。
- 

**頬ふくらまし 10回**  
頬をプクッとふくらませて、シュッとへこませます。
- 

**舌の出し入れ 5回**  
舌をグイッと突き出して、喉の奥までグッと戻します。
- 

**舌で歯茎の周りをなぞる 左・右回り 各10秒**  
舌を唇と歯茎の間に入れます。そして、グルーッと歯茎の周りをなぞります。
- 

**開口体操10秒×3回**  
口を大きくアーンと開きます。
- 

**えんげおでこ体操 10秒×3回**  
手のひらでおでこをギュッと押したまま、おへそをのぞき込みます。(ボールやフェイスタオルを使う方法もあります。)
- 

**舌の体操10秒×3回**  
口を大きく開けたまま、舌の先を上歯茎の裏にギュッと押し付けます。
- 

**大きな声で歌を歌う**



# 100歳までしっかり噛もう

## オーラルフレイルを予防しよう

### 「オーラルフレイル」とは…

“口の機能の低下”のことです。口に関するささいな衰えをそのままにしたり、適切に対処しないことにより口の機能の低下や食べる機能の障がい、さらには身体機能の低下につながります。



※1フレイル…体力や気力の余力が減り、心や体、社会的な機能が低下した状態のことです。長期間放っておくと要介護状態になる危険性が高くなります。

### オーラルフレイルを、そのまま放っておくのはとても危険です!

#### 「オーラルフレイル」の人が抱えるリスク

身体的フレイル	2.4倍
サルコペニア(筋肉の衰え)	2.1倍
要介護認定	2.4倍
総死亡率リスク	2.1倍

※調査対象者の年齢、性別、BMI、喫煙状況、酒量、認知機能、歯槽形態、歩行速度や握力などの影響を考慮し、年齢、要介護認定、総死亡率リスクで調整されたフレイルの罹患リスク。

**“口のささいな衰え”**は近い将来、全身が衰えるサインといえます。オーラルフレイルにならないために口の健康を保つこと、また、オーラルフレイルを早期発見し、対応することが大切です。



## 自分の口の健康状態をチェックしましょう

### オーラルフレイルのセルフチェック表

質問事項	はい	いいえ
半年前と比べて、堅い物が食べにくくなった	2	
お茶や汁物でむせることがある	2	
義歯を入れている*	2	
口の乾きが気になる	1	
半年前と比べて、外出が少なくなった	1	
さきイカ・たくあんくらいの堅さの食べ物を噛むことができる		1
1日に2回以上、歯を磨く		1
1年に1回以上、歯医者に行く		1

\*歯を失ってしまった場合は義歯等を適切に使って堅いものをしっかり食べることができるよう治療することが大切です。

### 合計の点数が

0～2点	オーラルフレイルの危険性は低い
3点	オーラルフレイルの危険性あり
4点以上	オーラルフレイルの危険性が高い

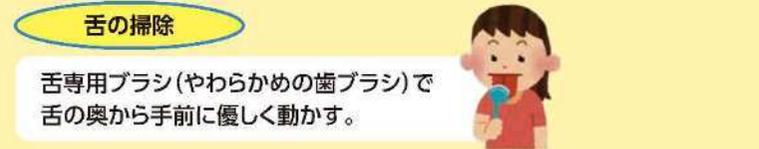
出典: 東京大学高齢社会総合研究機構 田中友規, 飯島康矢

## オーラルフレイルの予防3ポイント

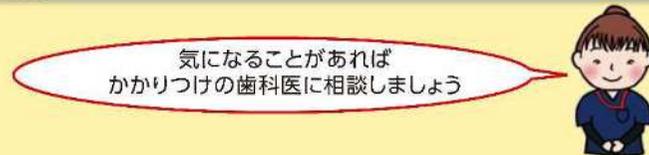
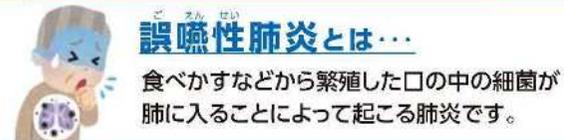


## 1. 口の手入れをしましょう

口を清潔に保つことで唾液の分泌がよくなり、むし歯・歯周病や口臭を防ぐことができます。お口の手入れを実践してみましょう。



## 口を清潔に保つことは誤嚥性肺炎予防にもつながります



**【常滑市】**  
**地域ボランティア活動(介護保険外支援)**

運営団体基本情報	
●運営団体名	地域ボランティア
●代表者名	常滑市社会福祉協議会
●事業開始	2017年11月～
●スタッフ構成	コーディネーター1名、登録者176名 (認知症サポーター養成講座の受講者100人程度、うち特に認知症について理解の深いサポーター(30名)を構成員として「認知症啓発チーム」を設置し、認知症の方の支援及び啓発活動については本チームが中心となって対応している。) ※青海地区の支援については、青海ボランティア隊(32名)と連携して実施
●運営財源	生活支援体制整備事業費、常滑市社会福祉協議会事業費(スマイルポイントのクオカードへの交換について：行政から一部補助あり)
●連絡先	TEL: (0569) 43-0662 Mail: tkshakyo@outlook.jp

事業概要	
●活動形態	生活支援及びボランティア活動
●活動場所	市内全域
●対象者層	主に高齢者、障がい者の方
●平均利用者数	実人数30名/月
●活動頻度	1日4件
●利用料金	軽作業については基本無料(この場合においても支援者に対しては活動30分あたり1ポイントのスマイルポイントを付与) 長時間の作業は1時間で最大500円(この場合、支援者には利用者が負担する利用料全額と活動30分あたり1ポイントのスマイルポイントを付与) 料金は随時依頼に合わせて要相談

**【活動の特徴】**

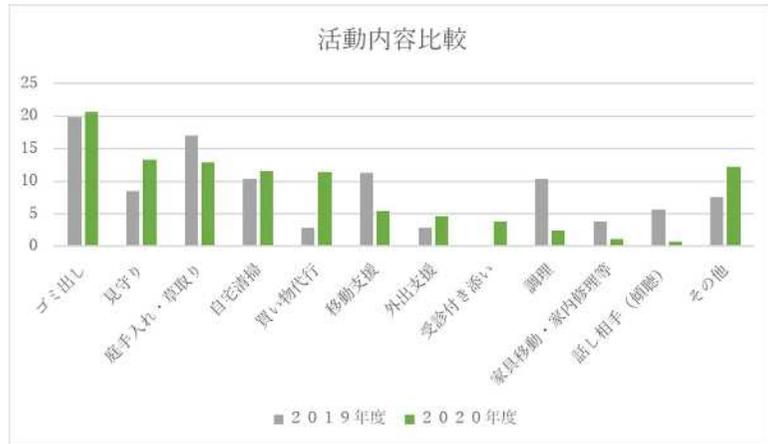
●経緯	<b>【設立】</b> ・常滑市社会福祉協議会では、2016年包括が委託になった際、生活支援コーディネーターの配属もあり、イベントや教室開催時にボランティアの活動意志の有無を確認し300名を超える市民の声を頂き、2017年11月に「地域ボランティアセンター」を立ち上げる運びとなった。 <b>【現状】</b> ・地域ボランティアの登録を市内全域に募り、現在では、登録者208名(内青海ボランティア隊32名)で活動中。
-----	---

●具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険で対応できない内容などを中心に(見守り、ゴミ捨て、自宅清掃、散歩、買い物など)活動している。</li> <li>基本、介護認定がおりていない方や軽度の認知症の方(障がい者の方)など相談に応じて個々面談して支援可否を決定。</li> <li>2020年9月現在では、ボランティア登録者208名(40代～90代)依頼は年々増加し、120件/月の活動実績があがっている。</li> <li>登録者には、民生委員、高齢者サポーター、介護職員、ケアマネジャー、保育士、看護師など様々な方があり、認知症の方への対応や啓発活動に関しては、「認知症啓発チーム」として、各地域別に連絡や活動を伝達できるような組織化を目指している。</li> </ul>
●活動経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>困りごとがある方からの依頼は、ご本人・ご家族からの直接の依頼のほか、ケアマネジャーや民生委員、高齢者相談支援センターなどを経由している。</li> <li>生活支援コーディネーターが依頼者と必要に応じてご本人との面談後に各地域の地域ボランティアとマッチングを行い、顔合わせ後に支援開始となる。</li> <li>月末に、支援者からの報告書提出(利用者の状況報告も含む)。次月初に集金訪問や支援者へのポイント捺印を行う。ケアマネジャーへも必要時は報告する。</li> <li>介護認定が必要な状態になった場合は、支援を介護保険に引き継ぎ終了とする。</li> <li>長期間の継続支援の方は、1年が経過した時点で支援の内容や頻度の見直しを行う。</li> <li>毎年、地域ボランティア登録者に向けて、研修会・学習会を開催している(ハートフルセミナー：2回研修会開催) その他、「認知症専門チーム」は、年2回情報交換・意見交換会を開催している。</li> <li>活動内容は、見守り(安否確認)、話し相手・外出支援(社会参加)を兼ねる、自宅清掃(兼見守り、できない部分のみのサポート)、草取り・草刈り(兼話し相手)、買い物支援(兼見守り)、診療付き添い(要相談)、ゴミ捨て、その他ニーズに合わせて対応。</li> <li>利用料は内容により無料～1時間最大500円</li> <li>支援者は活動30分あたりスマイルポイントが1ポイント付与される(活動内容や活動時間に応じてポイント加算あり)。50ポイント貯まると500円クオカードと交換できる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆生活支援コーディネーターが全域を把握し、高齢者相談支援センターと連携しているので、対応など相談でき、スムーズに支援に繋がっている。</li> <li>☆地域差があるのでボランティア登録が少ない地域は、他地域からカバーできている。</li> <li>☆ボランティアからの情報提供があるので、包括支援センターへ繋がり、迅速な対応ができています。</li> </ul>

データ・資料

地域ボランティア活動状況

地区	青海	鬼崎	常滑	南陵	計
2019.4~2020.3(12か月)					
2019年度活動延べ件数 (日数)	343	322	340	61	1066
2020.4~2020.9(6か月)					
2020年度活動延べ件数 (日数)	559	181	340	72	1152



スマイルポイント制度について

- ・2016年10月より60歳以上を対象に高齢者の健康維持・介護予防を目的に開始になる。
  - ・2018年4月より、40歳～59歳までの方にも、特定の活動参加者に限り、ポイント付与開始になる。
- 40歳から59歳までの方の登録について

(1) ポイントの対象となる活動は・・・  
次の2種類が対象となります  
①常滑市保健センターが指定する検診や健康教室に参加した場合  
②社会福祉協議会が指定する介護予防に関連するボランティア活動  
※ここでいう「ボランティア活動」とは会場準備や食事づくり、片づけ等、運営側が担う活動に無償で参加することを言います。

ご注意!  
①②以外の活動は、スマイルポイント登録団体の活動(運動・ボランティアともに)であってもポイントの対象となりません!

(2) ポイント点数、ポイントが貯まったら・・・  
①ポイント点数  
・常滑市保健センターが指定する検診等・・・1回参加につき1ポイント  
・社会福祉協議会が指定するボランティア活動・・・活動30分あたり1ポイント  
②ポイントが貯まったら  
50ポイント貯まると、500円分の商品券を交換致します。

(ポイント交換は社会福祉協議会で行います)

《お助け隊の活動内容》

1. 対象

- ・地域住民
- ・介護認定がおりていない方 (但し、応相談)
- ・認知症との診断が出ていない方 (但し、応相談)

2. 活動期間 (一時的に不便を感じたときのお手伝いが基本)

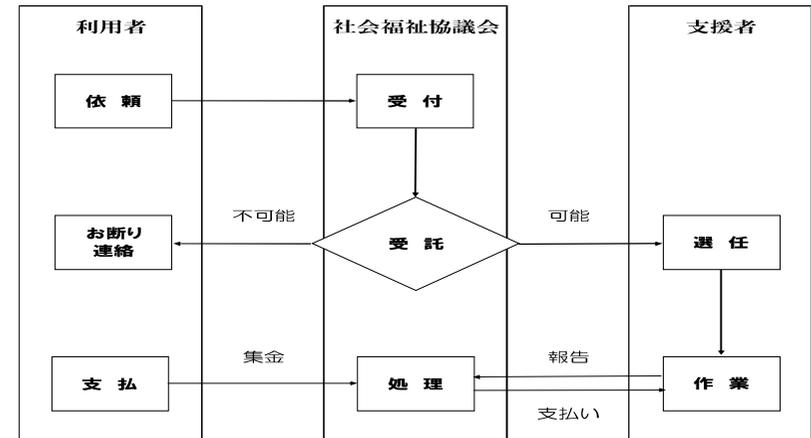
- ・数回、または数カ月(依頼者の状況にもよるが最長1年間とする)

3. 内容

- ・見守り(安否確認)
- ・話し相手・外出支援(社会参加)を兼ねる
- ・自宅清掃(兼見守り、できない部分のみのサポート)
- ・草取り・草刈り(兼話し相手)
- ・買い物支援(兼見守り)
- ・診療付き添い
- ・ゴミ捨て
- ・その他 応相談

※ 3の内容一覧のように、ボランティア活動とヘルパー業務は違います。あくまでも地域で生活していくための自立のお手伝いです。一緒に話しながら・・・楽しく地域のつながりを深めるボランティア活動です。

ワンコインボランティアの流れ (お助け隊)



【活動費】 500円/時間 を基準とします。ただし、活動内容に応じて金額が変わります。

例) ゴミ捨て 週に1回時 500円/月

※ 活動費の金額は契約時に利用者と相談して決定します。

【江南市】

認知症カフェ（カフェを中心とした地域連携とサポーター活動の推進）

運営団体基本情報	
●運営団体名	オレンジカフェ（五条川ジョイカフェ・にじいろカフェ）
●代表者名	江南南部地域包括支援センター（認知症地域支援推進員）
●事業開始	2019年10月～
●スタッフ構成	認知症地域推進員1名、カフェ協力隊8名、（うち認知症サポーター養成講座の受講者8人程度） 運営支援関係者：江南市職員・生活支援コーディネーター・市民農園はなのき農園代表（グループホーム運営推進会議参加者）特別養護老人ホーム・グループホーム施設スタッフ・グループホーム利用者家族・区長・サロン代表・民生委員・
●運営財源	認知症総合支援事業費
●連絡先	TEL:0587-55-5470 Mail: s.nagata@sato-hp.jp

事業概要	
●活動形態	認知症カフェの運営
●活動場所	江南市南部圏域
●対象者層	高齢者、認知症の方とその家族
●平均利用者数	実人数30名/月
●活動頻度	月1～2日
●利用料金	無料～100円

【活動の特徴】

●経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2018年8月～包括支援センター主催の認知症カフェ「にじいろカフェ」を開催。地域のキーパーソンの方の見学複数あり。</li> <li>・ グループホーム運営推進会議参加者から「自分たちの地域でも認知症カフェのような場が必要」との意見を得て、第2号店「五条川ジョイカフェ」の開催が決定。</li> <li>・ 開催準備にあたっては、広報活動、開催場所や駐車場の確保、開催当日のお手伝いなど地域住民や介護施設の方と協働で実施。</li> <li>・ R1年10月に認知症カフェを開催することの告知を兼ねた、プレオープン会を開催し、認知症サポーター養成講座を実施。</li> <li>・ サポーター養成講座のカリキュラムに認知症カフェや「カフェ協力し隊！」の活動内容の説明を加え、カフェ協力し隊（ボランティア）を募集したところ、参加者の中から5名の方の応募があった。</li> <li>・ カフェ準備会議に「カフェ協力し隊！」の方も参加していただき、カフェの名称や運営方法を協議した。</li> <li>・ R2年1月に第1回目の「五条川ジョイカフェ」を開催。</li> <li>・ 「カフェ協力し隊！」の活動の手引きや名札を作り、活動しやすい体制を整える。</li> <li>・ にじいろカフェでも同様に「カフェ協力し隊！」を募集。現在にじいろカフェでも4名の「カフェ協力し隊！」が活動をしている。</li> </ul>
-----	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「五条川ジョイカフェ」は地域の声で出来た、地域の人による社会資源と捉え、現在も発祥の場である「グループホーム運営推進会議」でカフェの運営報告や活動内容の協議を行っている。</li> </ul>
●具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>①にじいろカフェ（西部中学校圏域）毎月第3火曜日</li> <li>②五条川カフェ（布袋中学校圏域）毎月第4水曜日</li> <li>①②のカフェ開催のための活動関係者をお願いしている活動             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 活動内容の報告と協議、協力依頼の場</li> <li>・ グループホーム運営推進会議</li> <li>➢ 運営支援関係者</li> <li>・ 開催前のチラシの地区回覧</li> <li>・ 開催場所の確保、当日駐車場確保と車の移動</li> <li>・ 認知症利用者への特別な対応（ケマネジャーや福祉施設職員）</li> <li>➢ カフェ協力し隊！</li> <li>・ 会場設置・受付・演奏者の対応など</li> <li>・ 参加者への（皆が楽しく参加できるように）声掛けや配慮</li> <li>・ おれんじ通信（認知症予防や地域の情報を掲載）の作成協力</li> <li>➢ 地域の自主団体等（圏域の趣味団体、サークルグループ、専門職）</li> <li>・ カフェでの演奏</li> <li>・ 認知症の理解や介護保険サービスなどの講義</li> </ul> </li> <li>○活動の効果 カフェ協力し隊！8名の方に認知症カフェで認知症当事者、家族と接してもらうことで、当事者を支えるのに必要な「認知症の方を理解しようとする気持ち（姿勢）」や「認知症の方との関わり方」といった実践的なスキルが向上してきている。今後、これらのスキルを活用しチームオレンジの取組につなげていく。</li> </ul>
●活動経費	認知症総合支援事業費とカフェ参加費

**ココが Point!!**

☆介護サービス事業者、地域のキーパーソン、グループホーム利用者家族など多様な方が参加するグループホーム運営推進会議を協議の場とした事で、様々な立ち位置での意見や協力を得ながらカフェを運営する事ができた。

☆「カフェ」という具体的な場を通して、地域での認知症理解のあり方や本人家族の住みやすい街づくりについて考える事で、より身近に自分事として捉えていただけた。

☆「出来る事を、出来る範囲で」をモットーに「カフェ協力し隊！」を募集。「活動の場」と「そこで何をするのか」を手引きなどで具体的に示した事で、一番最初の関門でもある「活動へ参加」のハードルを下げ、参加しやすい体制が作れた。カフェへ参加する楽しさに加え、「役に立っている」やりがいも見いだせており、活動の継続はもちろん、新たな応募者も生んでいる。

**2号店オレンジカフェ（認知症カフェ）プレオープンの様子**

認知症サポーター養成講座開催  
1号店の様子を紹介 カフェの雰囲気も体験  
2号店開店にむけて協力者募集

サロンの代表 市民委員 区長さん  
ご本人 介護マネ 協議委員 包括  
ご家族 社会 行政

**カフェ協力し隊!**  
後付や応募者の募集、参加者の方への声掛けなどちょっとしたお手伝いをしていただく「カフェ協力し隊！」募集中です

原委や各種制度の理解など、目標の活動をお目指して、カフェを盛り上げてくださる方も募集しています。グループ、個人OK

**カフェ協力し隊! の手引き**

カフェ協力し隊の活動モットーは

出来ることを、できる範囲で♡

です!

まずは下記のお手伝いをお願いします。  
(慣れたら、「協力し隊」の皆さんと相談して活動を広げる予定です...)

①年間のうち参加が難しい日があれば早めに申し出を  
②急なお休みの場合は55-5470へ連絡を!

🕒 当日はオープン 30分前に集合(13時00分)

🕒 各テーブルへさとうスプーン入れ「ミルク皿」  
「取り皿・紙コップ8個」をセット  
🕒 お菓子を10皿にもりつけて、各テーブルに

**【知立市】**

**住民主体の認知症ボランティア活動**

運営団体基本情報	
●運営団体名	オレンジメイト（愛知県知立市）
●代表者名	（事務局）知立市 長寿介護課 地域支援係
●事業開始	2018年1月～
●スタッフ構成	コーディネーター1名（市職員）、登録サポーター18名 （うち認知症サポーター養成講座の受講者数 18名）
●運営財源	地域支援事業（包括的支援事業・社会保障充実分）
●連絡先	TEL:0566-95-0191 Mail:choju-kaigo@city.chiryu.lg.jp

事業概要	
●活動形態	住民主体の認知症ボランティア活動
●活動場所	市内全域
●対象者層	市民、認知症ご本人とその家族
●平均利用者数	認知症カフェ・家族交流会参加 5人/回 介護事業所での傾聴ボランティア 令和元年度 実績6人 延べ31件
●活動頻度	認知症カフェ・家族交流会 月1回 介護事業所での傾聴ボランティア 週2回～月1回
●利用料金	無料

**【活動の特徴】**

●経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度より「オレンジメイト育成研修（認知症サポーターズテップアップ講座）」を市主催で開始。2年間で認知症ボランティア（以下「オレンジメイト」という）を20名育成。</li> <li>オレンジメイト育成研修終了時のアンケートにて今後の活動に対する調査をしたところ「認知症カフェへの参加」「傾聴ボランティア」「徘徊高齢者搜索模擬訓練への参加」に希望あり、活動を実施。</li> <li>傾聴ボランティア活動の場として、市内介護事業所に協力を依頼し活動を実施。市内介護事業所がボランティアを募集していたことから、市が介護事業所とオレンジメイトの橋渡しを行い、介護事業所への人材支援とオレンジメイトの活躍の場を確保することを目的として活動を開始した。</li> <li>認知症施策に関する関係者意見交換会を認知症地域支援推進員とグループホーム等の市内介護事業所とともに実施。オレンジメイトの活動方法について意見交換を行った。</li> </ul>
-----	---

●具体的な活動	<p>&lt;徘徊高齢者搜索模擬訓練への参加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度に市民対象に徘徊高齢者搜索模擬訓練を実施。運営の手伝いとしてオレンジメイトが参加。市民40名の参加あり。</li> <li>オレンジメイトが運営に入ること、オレンジメイトの知り合いが参加するなど、行政のみで実施するよりも市民が参加しやすい雰囲気となった。</li> </ul> <p>&lt;認知症カフェ・家族交流会への参加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度より認知症カフェ・家族交流会でのボランティアを実施。</li> <li>活動内容は傾聴、運営手伝い。</li> <li>オレンジメイトが知り合いの認知症ご本人とご家族を認知症カフェへ誘い、認知症カフェに参加したことをきっかけに地域包括支援センターへの相談・介護保険サービス・家族交流会の参加へつながるケースがあった。</li> <li>認知症カフェ参加者、家族交流会参加者へオレンジメイト育成研修の案内を行っている。</li> </ul> <p>&lt;介護事業所へのオレンジメイト紹介事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度より介護事業所へのオレンジメイト紹介事業を開始。ボランティア活動を希望するオレンジメイトと、ボランティアを募集している介護事業所とのマッチング事業を行った。</li> <li>ボランティア内容は傾聴、作業時の見守り・声かけ、囲碁・将棋。</li> <li>介護事業所はグループホーム・地域密着型通所介護・小規模多機能型居宅介護にて実施。</li> <li>オレンジメイトが傾聴ボランティアに参加したことをきっかけに、介護事業所利用者とオレンジメイトの交流が再開するケースがあり、介護事業所利用者と地域のオレンジメイトをつなぐきっかけを作ることができた。</li> <li>介護事業所の活動にオレンジメイトが参加することで、介護事業所と地域のオレンジメイトとの顔の見える関係づくりを行うことができた。</li> </ul>
●活動経費	<ul style="list-style-type: none"> <li>オレンジメイト育成研修講師料 15,000円/年</li> </ul>
	<p> ☆オレンジメイトと介護事業所とのマッチング事業について、オレンジメイトの居住地に近い介護事業所を選定したことで、介護事業利用者や地域のオレンジメイトをつなぐきっかけとなった。また、介護事業所と地域のオレンジメイトとの顔の見える関係づくりを行うことができた。</p>

ひまわり  
カフェ  
写真



**【岩倉市】**

**ケアドカフェひろみの取組**

運営団体基本情報	
●運営団体名	いわくら認知症ケアアドバイザー会
●代表者名	尾関恵明
●事業開始	2008年1月～
●スタッフ構成	登録サポーター24名 (うち認知症サポーター養成講座の受講者22人)
●運営財源	会費や賛助会員費による
●連絡先	TEL:0587-38-5811      Mail:choujukaigo@city.iwakura.lg.jp

事業概要	
●活動形態	ボランティア団体主体の認知症啓発活動等 だれもが気軽に集える場の提供(ケアドカフェ)
●活動場所	市内全域 私鉄駅前 空き店舗スペース(ケアドカフェ)
●対象者層	特に定めない 認知症の方やその家族。お年寄り。子育て中の親。 通りすがりの人。地域の様々な方。
●平均利用者数	実人数 38名/月
●活動頻度	週1日(ケアドカフェ)
●利用料金	200円(ケアドカフェ)

**[活動の特徴]**

●経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3期(H18～20)岩倉市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の認知症に関する取り組みに位置付け、岩倉市認知症サポーター養成事業の一環として始まった。</li> <li>平成19年に市民を対象とした講座を設定し「岩倉市認知症ケアアドバイザー」を養成する。</li> <li>市内各所で認知症サポーター養成講座の講師となる活動を開始する。</li> <li>平成22年に市から独立したボランティア団体となり、市内の全小学校(5校)で認知症啓発劇を上演する。</li> <li>平成23年に名称を「いわくら認知症ケアアドバイザー会」と改め、「養成講座」「カフェ」「広報」の部会活動を始める。</li> </ul> <p><b>【カフェ開設への経緯】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会の目的、役割を考える中で、会員の想いとして、認知症の事を正しく理解してもらいたい想いから養成講座を実施してきた。それと共にもう一つの想いとして直接認知症の方やその家族の方の支えになりたい想いがあった。その実現方法として、当時話題としてあがっていた「認知症カフェ」について検討を始めた。岩倉市として会員への情報提供とともに、補助金を活用し、会員に他県の認知症カフェ等にも視察に行けるよう支援した。「認知症カフェ」にもさまざまな運営形態があることを知り、自分たちのできる「認知症カフェ」を模索し、認知症の方やその家族だけでなく誰でも参加できるような現在の運営方法に行きついた。</li> <li>名称について 役割として認知症カフェにはなるのだが、来る人たちにそれを知らせる必要はないのではないか、誰もが立ち寄れる場所で認知症の方も普通に受け入れられる空間でありたいとの考えから認知症を外した。地域に根付き、親しまれてきた薬局の名前をいただき「ケアドカフェ“ひろみ”」とした。</li> </ul>
●具体的な活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>①認知症サポーター養成講座の開催。 保健推進員活動や一般市民向け、小学校など要望があったところに出向き、サポーター養成講座を実施している。</li> <li>②市の認知症事業の参加 認知症にかかる映画上映会や声掛け訓練など市が実施する認知症事業に参加していただき、お手伝いいただいている。</li> <li>③ケアドカフェひろみ(認知症カフェ)の運営、実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週木曜日午後1時～4時までで行っている。会員が以前、駅前で薬局をやっており、その店舗を改装し利用させてもらい実施している。</li> <li>地域包括支援センターの職員に協力してもらい、気軽に相談できる日を設定している。</li> <li>地域の他の事務所やボランティア団体とも協力し出張ケアドカフェを実施している。</li> <li>効果として、介護に関する専門的知見を有するサポーターや、社会経験豊富なサポーターが、主に認知症の人の家族の相談に乗ることで家族の精神的負担の軽減や介護技術の助言、指導につながっている。</li> </ul> </li> </ol>

**●活動経費**

**【カフェの会計】**

- ・岩倉市のサロン活動の助成金の活用
- ・カフェに参加する会員も200円の参加費を一緒に負担している。

**ココがPoint!!**

☆ケアドカフェひろみでは、昭和を感じていただきながら一息出来る場所、介護について知りたい方、認知症の方やその家族、人と繋がりたい方、おしゃべりしたい方、どなたでも参加していただけるカフェです。

☆ケアドカフェのスタッフは高齢者です。でも侮るなかれ、介護士・ヘルパー・薬剤師・料理上手、折り紙の達人、野菜作り名人、唱歌、歌謡曲、クラシックなんでもござれの音楽好きなど、長年培ってきたものがあります。とびきりのスマイルと朗らかな声でお越しになる皆さんと会話が弾みます。

**カフェの写真**



**令和元年度 カフェ開催実績**

	開催回数	参加者数	スタッフ人数	合計人数	
4月	4	34	23	57	
5月	4	47	28	75	
6月	4	26	22	48	
7月	4	32	25	57	
8月	4	35	28	63	
9月	4	32	26	58	
10月	5	56	28	84	
11月	4	47	25	72	
12月	4	54	24	78	
1月	4	36	22	58	
2月	4	51	26	77	
3月	3	10	10	20	
計	48	460	287	747	3.23から休み

**【豊明市】**

おたがいさま活動（暮らしの困りごと支援）

運営団体基本情報

●運営団体名	おたがいさまセンターちゃっと（愛知県豊明市）
●代表者名	南医療生活協同組合 ほか
●事業開始	2017年11月～
●スタッフ構成	コーディネーター4名、登録サポーター266名 （うち認知症サポーター養成講座の受講者90人程度）
●運営財源	地域支援事業費（生活支援体制整備事業費）、利用料
●連絡先	TEL: (0562) 51-0635 Mail: toyoake-chatto@md.ccnw.ne.jp

事業概要

●活動形態	住民主体の生活支援活動
●活動場所	市内全域
●対象者層	主に高齢者（うち認知症自立度Ⅱ以上44人：Ⅱa10人、Ⅱb29人、Ⅲa3人、Ⅲb1人、Ⅳ1人）
●平均利用者数	実人数60名/月
●活動頻度	週5日
●利用料金	30分250円

【活動の特徴】

●経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>2011年から「南医療生活協同組合」（名古屋市緑区）が開始した「おたがいさまシート」の取組を起点とする。「おたがいさまシート」とは困った人をサポートする取組であり、「膝が悪くてゴミが出せない」、「帰宅しても話し相手がいない」など「サポートが必要だ」と感じた人がシートを南医療生活協の地域ささえあいセンターに提出すると、センターが地域の組合員にサポートを打診し、困りごとの解決を図る仕組みである。</li> <li>この取組に豊明市が着目。地域で長年支え合い活動を実践してきた「コープあいち」、「J」Aあいち尾東に声をかけ、2017年4月に準備委員会を結成した後、約7か月間の準備期間を経て、「おたがいさまセンターちゃっと」を協同で設立。</li> <li>サービスを開始した2017年11月当時は、利用者数5名、サポーター5名の細々とした活動であったが、市の広報活動などの努力が実を結び、2020年6月現在で、生活サポーター登録者数は18～85歳の267名。昨年度は毎月約220件の依頼があり、約70人/月が活動。サポーターの活動量（70人/月）は、要支援ヘルパーのサービス提供量（50人/月）を上回っている</li> <li>サポーターは、事業開始当初は組合員が主体であったが、近年は非組合員が主となっている。</li> </ul>
-----	--

●具体的な活動

- ・ 困りごとがある人（家族を含む）からのニーズの吸い上げは「地域包括支援センター」、サポーターの掘り起こしやマッチングは「おたがいさまセンター」が役割分担。
- ・ サポートを求める人とサポーターのマッチングを行うため、「おたがいさまセンター」に地域の事情に詳しく、資源や人材のマッチングに長けた生活体制整備事業に係る生活支援コーディネーターを4名配置。依頼が入るとコーディネーターが依頼者のもとを訪ねて打ち合わせを行い、対応可能であると判断した場合にサポーターとのマッチングを実施。サポーターとの依頼者との顔合わせにはコーディネーターも同席するなど丁寧なサポートを実施。
- ・ 生活サポーターは毎月1回市が実施する講座を受講する必要がある。認知症サポーター養成講座を実施する際は、生活支援などより生活サポーターの業務に合わせた内容を盛り込んでいる。
- ・ サービス内容は①掃除、②買い物、③洗濯、④食事作り、⑤ゴミ出し、⑥話し相手、⑦外出の付き添い、⑧布団干し・取り入れ、⑨季節物の入れ替え、⑩簡単な繕い物、⑪電球・電池交換、⑫簡単な家具の補修、⑬花、植木の水やり、⑭雑草取り、⑮その他の15項目
- ・ 活動時間は30分単位であり、利用者は30分ごとに250円相当を自己負担する。

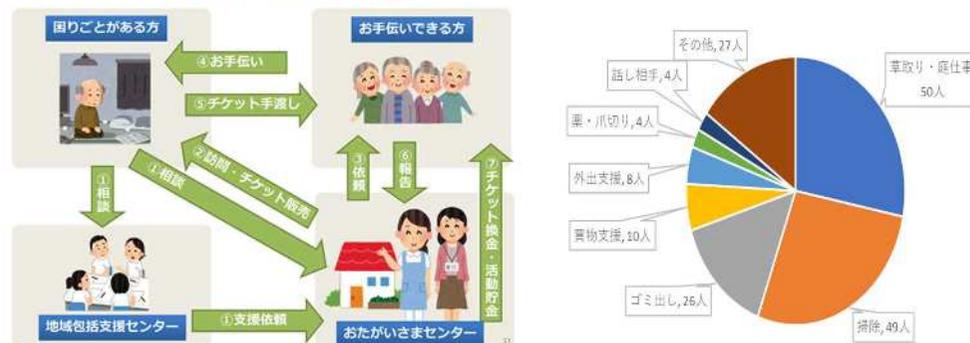
●活動経費

- ・ コーディネーター人件費、運営事務経費については市からの委託料（地域支援事業費（生活支援体制整備事業費））で運営。サポーターへの謝金は、利用者からの利用料のみ。



- ☆ 市南部を主な活動領域とする南医療生協、市北部を主な活動領域とするJ Aあいち尾東農協、市全域を主な活動領域とするコープあいちを運営主体とすることで市全域をカバーすることに成功
- ☆ サポートを必要とする人には、近隣のサポーターが手を差し伸べられるよう、自治会単位で、サポートを必要とする人数とそれに応えられるサポーターの人数（需給バランス）を棒グラフにより見える化。サポーターの数が不足している自治会に対しては、棒グラフを示し、サポーターの掘り起こしを依頼
- ☆ 生活支援サポーターが、依頼者から丁寧な聞き取りを行うことでミスマッチが生まれにくく、継続的な活動が実現。

豊明市おたがいさまセンター「ちゃっと」のしくみ ちゃっと利用者（介護認定ありの人）へのサポート状況



【東浦町】

オレンジパラソルによる認知症予防啓発運動

運営団体基本情報

●運営団体名	オレンジパラソル（東浦町ボランティアセンター登録団体）
●代表者名	道家浩美
●事業開始	2013年4月～
●スタッフ構成	会員数14名（うち認知症サポーター14名）
●運営財源	会費1,000円（年額） 学校認知症サポーター養成講座での劇実施に対する謝金 3,000円/1回
●連絡先	TEL:0562-83-8805

事業概要

●活動形態	ボランティア団体による認知症予防啓発運動
●活動場所	町全域
●対象者層	町民全て
●平均利用者数	不明
●活動頻度	定例会月1回 その他活動については不定期
●利用料金	無し

[活動の特徴]

●経緯	認知症サポーター養成講座、認知症サポーターフォローアップ講座を受講した有志で平成25年に結成。講座で学んだことをより多くの人に知っていただき、認知症への理解を広め、認知症の方が地域で暮らしやすい町になることを目指して啓発活動をしている。 毎年認知症サポーター養成講座、認知症サポーターフォローアップ講座を受講した方が参加し、年々メンバーを増やしている。
●具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員間の認知症の理解を深めると共に、住民に向けた認知症予防の啓発運動を実施。</li> <li>・ 認知症予防カフェの開催や認知症についてわかりやすく理解していただくための劇を町内で実施される認知症サポーター養成講座や各種イベント等で実施。</li> <li>・ 平成29年度より町内の小学校4年生、中学校1年生全員を対象とした認知症サポーター養成講座において「物盗られ妄想への対応」「行方不明高齢者への声掛けの仕方」の劇を実施。劇を通して子どもたちへの認知症理解のための啓発活動に力を入れている。</li> <li>・ 国立長寿医療研究センターが実施する、互いに褒め合うことで認知症予防につなげる研究に、サポーター自身が参加し協力している。</li> </ul>
●活動経費	劇に係る衣装、道具代等は会費および謝金で賅っている。



☆ 認知症について学び、認知症の方と共に暮らしていくために地域での認知症理解を深めること、認知症の方の手助けをしてくれる人を増やすことが必要と考えた想いのあるメンバーが集い、同じ地域に住む住民として同じ目線で認知症について語ることで、より地域での理解、共感を得ることが出来ている。



愛知県版  
チームオレンジ事例集

令和2年11月発行 愛知県福祉局高齢福祉課

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/chiikihoukatu/>  
TEL : 052-954-6494